

## 調査結果のまとめ

### 1 市や区に対する愛着や定住意識について

#### (1) 相模原市に対する愛着

相模原市に対して愛着や親しみを感じているかたずねたところ、「感じている」(43.3%)と「やや感じている」(31.1%)の2つを合わせた《感じている(計)》(74.4%)は7割半ばとなっている。一方、「あまり感じていない」(6.6%)と「まったく感じていない」(1.9%)の2つを合わせた《感じていない(計)》(8.5%)は1割に満たない。

#### (1-1) 相模原市に愛着や親しみを感じるどころ

相模原市に対して愛着や親しみを「感じている」または「やや感じている」と答えた方に、どのようなところに愛着や親しみを感じているかたずねたところ、「自然環境(山、森、川、緑地等)」(47.6%)が4割半ばを超えて最も高く、次いで、「閑静な生活環境」(36.6%)、「近隣の人間関係」(25.1%)、「友人や親戚との付き合い」(23.3%)、「公園、広場等のオープンスペース」(21.0%)と続いている。

#### (2) 居住している区に対する愛着

相模原市やお住まいの区に対して愛着や親しみを感じているかたずねたところ、「感じている」(34.6%)と「やや感じている」(31.6%)の2つを合わせた《感じている(計)》(66.2%)は6割半ばを超えている。一方、「あまり感じていない」(6.7%)と「まったく感じていない」(2.0%)の2つを合わせた《感じていない(計)》(8.7%)は1割に満たない。

#### (2-1) 居住している区に愛着や親しみを感じるどころ

お住まいの区に対して愛着や親しみを「感じている」または「やや感じている」と答えた方に、どのようなところに愛着や親しみを感じているかたずねたところ、「閑静な生活環境」(43.1%)が4割を超えて最も高く、次いで、「自然環境(山、森、川、緑地等)」(33.1%)、「近隣の人間関係」(30.3%)、「友人や親戚との付き合い」(22.2%)と続いている。

#### (3) 定住意向

これからも相模原市に住みたいかたずねたところ、「住みたいと思う」(70.8%)が7割を超えている。一方、「住みたくないと思う」(5.0%)は1割に満たない。

#### (3-1) 定住したい理由

これからも相模原市に「住みたいと思う」と答えた方に、どのような理由からかたずねたところ、「長年住み慣れているから」(55.5%)が5割半ばで最も高く、次いで、「自分の家や土地だから」(48.4%)、「買い物に便利だから」(42.0%)、「自然環境がよいから」(36.6%)、「近くに親戚や友人がいるから」(24.8%)と続いている。

#### (3-2) 転出したい理由

相模原市に「住みたくないと思う」と答えた方に、どのような理由からかたずねたところ、「通勤・通学に不便だから」、「買い物に不便だから」(30.6%)が3割を超え最も高く、次いで、「自

分が生まれ育ったところではないから」、「公共施設が整っていないから」(27.8%)、「まちの雰囲気嫌いだから」(23.6%)と続いている。

#### (4) 生活環境の評価

お住まいの地域の生活環境について、日頃どのように感じているか、16項目に分けて聞いたところ、《良い評価》は、(1)日当たりや風通し(77.6%)が7割半ばを超え最も高く、次いで、(7)台所・風呂からの排水処理(77.1%)、(4)雨水の排水(72.4%)、(3)車以外の騒音・振動・悪臭(71.7%)と続いている。

一方、《悪い評価》は、(11)公共施設への交通の便(23.9%)が2割を超えてもっとも高く、次いで、(2)車の騒音・振動・排ガス(20.3%)、(10)通勤・通学の便(19.0%)と続いている。

## 2 <sup>エスティーゼ</sup>SDGsについて

### (1) SDGsのロゴやアイコンの認知状況

SDGsのロゴやアイコンを見たことがあるかたずねたところ、「見たことがある」(52.2%)が5割を超え、「見たことがない」(34.5%)は3割半ばとなっている。

### (2) SDGsの認知度

SDGsを知っているかたずねたところ、「詳しく知っている」(5.9%)と「知っている」(46.4%)の2つを合わせた《知っている(計)》(52.3%)は5割を超えている。一方、「聞いたことはある」(29.5%)は、3割近くとなっている。

### (3) SDGsの達成に向けて実践していること

SDGsの達成に向けて実践していることをたずねたところ、「プラスチック削減のため、マイバッグやマイボトルを使っている」(76.3%)が7割半ばを超えて最も高く、次いで、「食品ロス(食べ残しや賞味期限切れによる食品廃棄)の削減を意識している」(66.0%)、「温室効果ガスの排出抑制を意識している(節電や公共交通機関の利用など)」(29.9%)、「家事や育児の分担など、ジェンダー平等を意識している」(19.5%)と続いている。

## 3 ユニバーサルデザインについて

### (1) ユニバーサルデザインの認知度

ユニバーサルデザインについてどの程度知っているかたずねたところ、「言葉も考え方も知っている」(28.0%)が2割半ばを超えており、「言葉は知っているが考え方は知らない」(35.5%)は3割半ばとなっている。一方、「言葉自体を知らない」(33.5%)は3割半ばとなっている。

### (2) ユニバーサルデザインの考え方を優先的に取り入れていくべき分野

ユニバーサルデザインの考え方を優先的に取り入れていくべき分野をたずねたところ、「生きがいや交流の場となる高齢者の施設等の充実」(36.5%)が3割半ばで最も高く、次いで、「高

年齢者の就労支援」(35.1%)、「知識や技能を習得するための学習機会の提供」(31.3%)、「自らの知識や経験を生かすことのできる活動の場の紹介」(30.6%)、「地域活動や社会奉仕活動などを行う団体への参加促進や支援」(22.9%)と続いている。

## 4 消防団の認知度について

### (1) 非常勤特別職の地方公務員である消防団の認知度

18歳以上で市内に在住又は在勤であれば入団できる非常勤特別職の地方公務員である消防団を知っているかたずねたところ、「言葉も内容も知っている」(24.9%)と「言葉は知っているが内容までは知らない」(54.6%)を合わせた《知っている(計)》(79.5%)は約8割となっている。一方、「言葉も内容も知らない」(17.9%)は2割に満たない。

### (2) 消防団のポジティブ(積極的)とイメージするもの

消防団のポジティブ(積極的)なイメージをたずねたところ、「地域のために貢献している」(42.1%)が4割を超えて最も高く、次いで、「地域で大切な存在である」(18.2%)、「わからない」(10.0%)、「消防団がいることで安心する」(9.5%)、「災害活動で活躍している」(8.7%)と続いている。

### (3) 消防団のネガティブ(消極的)とイメージするもの

消防団のネガティブ(消極的)なイメージをたずねたところ、「わからない」(21.7%)が2割を超えて最も高く、次いで、「消防団活動が不透明である」(20.5%)、「特にない」(14.9%)、「家族に負担が掛かる」(14.7%)、「訓練が大変である」(10.1%)、「上下関係が大変である」(3.6%)、「規律が厳しそうである」(2.5%)と続いている。

### (4) 消防団がどんな時に必要と感じるか

消防団がどんな時に必要と感じるかたずねたところ、「地域の災害対応」(42.3%)が4割を超えて最も高く、次いで、「大規模な災害時」(23.0%)、「火災予防に伴う警戒活動」(20.4%)と続いている。

### (5) 消防団員個人に報酬を支給している認知度

消防団員個人に報酬が支給されていることを知っているかたずねたところ、「知らない」(50.1%)が5割を超えて最も高く、次いで、「ボランティアだと思っていた」(21.7%)、「知っている」(20.6%)と続いている。

### (6) 入団するとした場合にあなたが一番求めるもの

入団するとした場合にあなたが一番求めるものをたずねたところ、「災害対応力の向上」(34.1%)が3割半ばで最も高く、次いで、「地域への貢献」(31.6%)、「報酬」(20.5%)と続いている。

### (7) 消防団員募集に関する認知度

消防団員募集に関する広報を見たり・聞いたりしたことがあるかたずねたところ、「気にした

ことがない」(63.0%)が6割半ばで最も高く、次いで、「チラシやポスター等で見た」(28.5%)、「消防団員が入団募集活動をしていた」(2.7%)と続いている。

#### (8) 消防団への加入勧誘があった場合、入団するか

住んでいる地域から消防団への加入勧誘があった場合、あなたは入団するかたずねたところ、「いいえ」(61.0%)が6割を超えて最も高く、次いで、「わからない」(32.7%)と続いている。

### 5 福祉(介護・障害福祉分野)の仕事について

#### (1) 福祉の仕事に対するイメージについて

福祉(介護・障害福祉分野)の仕事にどのようなイメージを持っているかたずねたところ、「今後、重要となっていく」(75.2%)が7割半ばで最も高く、次いで、「体力的・精神的にきつい」(58.8%)、「給与面など雇用面での待遇が良くない」(55.6%)、「人や社会の役に立ち、働きがいがある」(20.9%)と続いている。

#### (2) 福祉の仕事に就いてみたいと考えたことがあるか

福祉(介護・障害福祉分野)の仕事に就いてみたいと考えたことがあるかたずねたところ、「就いてみたいと考えたことがない」(68.4%)が7割に近い。次いで、「現在、福祉(介護・障害福祉分野)の仕事に就いている又は過去に就いたことがある」(9.3%)、「就いてみたいと考えたことがある(介護・障害福祉分野の両方)」(7.9%)、「就いてみたいと考えたことがある(介護分野のみ)」(7.2%)と続いている。

#### (3) 福祉の仕事に就くとした場合に知りたい事前情報

福祉(介護・障害福祉分野)の仕事に就くとしたら、あなたは事前にどのような情報を知りたいかたずねたところ、「賃金・待遇・福利」(59.0%)が6割に近く、最も高い。次いで、「現場の声(現役職員のインタビュー等)」(42.6%)、「職種やサービスの種類・内容」(40.7%)、「神奈川県・相模原市の各種補助制度」(26.1%)と続いている。

### 6 公民館について

#### (1) 相模原市にある公民館の認知度

相模原市にある公民館を1つでも知っているかたずねたところ、「知っている」(90.9%)が9割で最も高く、次いで、「知らない」(8.4%)と続いている。

#### (2) 公民館の事業への参加状況

「学級・講座」、「公民館まつり・スポーツ大会」などの公民館の事業に参加したことがあるかたずねたところ、「参加したことがない」(54.3%)が5割を超えて最も高く、次いで、「参加したことがある」(40.2%)と続いている。

## (2-1) 参加したことのある事業について

どのような公民館の事業に参加したことがあるかたずねたところ、「子どもまつり・公民館まつり・スポーツ大会」(85.7%)が8割半ばで最も高く、次いで、「学級・講座」(29.3%)と続いている。

## (3) 公民館施設(部屋)の利用状況

公民館施設(部屋)を利用したことがあるかたずねたところ、「公民館施設を利用したことがない」(54.6%)が5割を超えて最も高く、次いで、「公民館施設を利用したことがある」(38.7%)と続いている。

### (3-1) 公民館施設の利用頻度

公民館施設をどれくらい利用しているかたずねたところ、「1年以上利用していない」(46.2%)が4割半ばを超えて最も高く、次いで、「特に決まっていない」(24.5%)と続いている。

また、「月に数回利用している」と「年に数回利用している」を合わせた「利用している(計)」(24.7%)は2割半ばとなっている。

### (3-2) 身につけた知識・技能や経験の活用方法

公民館施設を通じて身につけた知識・技能や経験を、どのような形で活かしているかたずねたところ、「人間関係を広げ、仲間づくりにつなげている」(31.2%)が3割を超えて最も高く、次いで、「趣味や特技に生かしている」(29.9%)、「健康の維持、増進に役立てている」(24.8%)、「日常生活に生かしている」(20.5%)と続いている。

### (3-3) 利用したことがない理由

公民館施設を利用したことがないのは、どのような理由からかたずねたところ、「関心・興味がない」(36.3%)が3割半ばを超えて最も高く、次いで、「どのような学習や活動があるかわからない」(28.2%)、「仕事・家事・育児などにより、時間がとれない」(27.3%)、「一緒に活動をする仲間がいない」(16.4%)と続いている。

## (4) どのような分野の事業を期待するか

公民館にどのような分野の事業を期待するかたずねたところ、「趣味に関する事業」(37.9%)が3割半ばを超えて最も高く、次いで、「健康・スポーツに関する事業」(37.6%)、「家庭教育や子育てに関する事業」(19.2%)、「地域の防災に関する事業」(18.1%)と続いている。

## (5) どのような取組を期待するか

公民館にどのような取組を期待するかたずねたところ、「住民が気軽に参加しやすい取組」(47.8%)が4割半ばを超えて最も高く、次いで、「より多くの地域住民へ情報を伝達する取組」(27.1%)、「まちづくり、地域課題に関する取組」(18.7%)、「仲間づくり、コミュニティづくりへの取組」(17.0%)と続いている。

## (6) どのようなものに力を入れていくべきだと考えるか

公民館に関する情報を発信していく上で、どのようなものに力を入れていくべきだと考えるかたずねたところ、「インターネットを活用したサービス ※SNS等」(40.0%)が4割で最も

高く、次いで、「自治会等で回覧される地域情報誌」(31.1%)、「ホームページ」(29.9%)、「チラシ、ポスター」(24.0%)、「公民館報」(22.2%)と続いている。

## 7 消費生活に関する市民意識調査について

### (1) 消費生活センターの認知度

市内に消費生活センターがあることを知っているかたずねたところ、「市内にあることは知っているが、業務内容は知らない」(36.7%)が3割半ばで最も高く、次いで、「市内にあることも、業務内容も知らない」(34.1%)と続いている。

### (2) 1～2年の間に起こった事業者とのトラブルについて

1～2年の間に、商品を購入したり、サービスを利用した際、事業者との間でトラブルにあったことがあるかたずねたところ、「ない」(88.8%)が9割に近く、最も高い。次いで、「ある」(6.7%)と続いている。

#### (2-1) トラブルの内容について

どのようなトラブルであったかたずねたところ、「商品・サービスの内容に関するもの」(51.6%)が5割を超えて最も高く、次いで、「事後の対応や苦情への対応などに関するもの」(21.1%)、「販売方法に関するもの」(13.7%)、「解約に関するもの」(10.5%)と続いている。

#### (2-2) 相談について

ここ1～2年の間に、商品を購入したり、サービスを利用した際、事業者との間でトラブルがあった際にどこかへ(誰かに)相談したかたずねたところ、「相談しなかった」(53.7%)が5割を超えて最も高く、次いで、「相談した」(45.3%)と続いている。

##### (2-2-1) 相談先について

どこかへ(誰へ)相談などをしたかたずねたところ、「購入店舗、利用店舗、勧誘員、営業担当者等」(37.2%)が3割半ばを超えて最も高く、次いで、「市内の消費生活センター」(32.6%)、「メーカー(製造者・販売者・輸入者等)」(23.3%)と続いている。

##### (2-2-2) 相談しなかった理由

どこにも相談をしなかったのはなぜかたずねたところ、「どこに相談したらいいか、わからなかったから」、「相談しても、うまい解決策があるとは思わなかったから」(29.4%)が3割に近く最も高い。次いで、「面倒だったから」(27.5%)、「被害が小さかったから」(25.5%)と続いている。

### (3) 情報の入手先

悪質商法の手口や商品のリコール、消費者問題に関する相談窓口や講座等、消費生活に関する情報をどのようなところから入手しているかたずねたところ、「テレビ」(60.5%)が6割を超えて最も高い。次いで、「インターネット」(48.7%)、「新聞・雑誌」(26.6%)、「広報さ

がみはら」(22.3%)と続いている。

## 8 スポーツの観戦や支援について

### (1) 「相模原市ホームタウンチーム」に関する関心

「相模原市ホームタウンチーム」にどの程度関心があるかを、5チームに分けて聞いたところ、「チームを応援しているが、観戦に行ったことがない」は③S C相模原(10.9%)が1割を超えて最も高く、「名前を知っている程度」でも、③S C相模原(58.3%)が5割半ばを超えて最も高くなっている。一方、「知らない」は、⑤チーム右京相模原(72.0%)が最も高く、7割を超えている。

## 9 自転車の安全利用について

### (1) 自転車保険の加入状況

自転車運転中の加害事故の被害者に対する賠償に備えた保険に加入しているかたずねたところ、「加入している」(43.3%)は4割半ばとなっている。一方、「自転車を持っているが、加入していない」(10.8%)が1割、「自転車を持っているが、加入しているか分からない」(5.9%)は1割未満、「自転車を持っていない」(35.5%)は3割半ばとなっている。

また、「自転車を持っている方」(「自転車を持っていない」+無回答者を除く)でみると、「加入している」(72.2%)は7割を超えている。一方、「加入していない」(18.0%)は2割近く、「加入しているかわからない」(9.8%)は1割に満たない。

#### (1-1) 加入している保険の種類

自転車保険に「加入している」と答えた方に、加入している保険をたずねたところ、「個人賠償責任保険(特約も含む)」(72.3%)が7割を超えて最も高く、次いで、「団体保険または共済」(17.5%)、「TSマーク付帯保険」(11.3%)と続いている。

#### (1-2) 加入していない理由

自転車保険に「自転車を持っているが、加入していない」と答えた方に、加入していない理由をたずねたところ、「自転車にほとんど乗らないから」(40.9%)が4割を超えて最も高く、次いで、「加入手続きの方法が分からないから」(28.6%)、「費用が掛かるから」、「事故の加害者になることはほとんどないと思うから」(13.0%)と続いている。

### (2) 自転車事故の賠償に備える特約を付帯できる損害保険の認知度

自動車保険や火災保険に、自転車事故を起こした場合の特約保険を付帯できるものがあることを知っているかたずねたところ、「知っている」(57.7%)が6割近く、「知らない」(37.0%)は4割近くとなっている。